

六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.31
六甲山開発史/森地 一夫
2005年10月発行

第31回テーマ： 六甲山開発史

講演内容

昭和初期の六甲山
阪神・阪急の開発競争

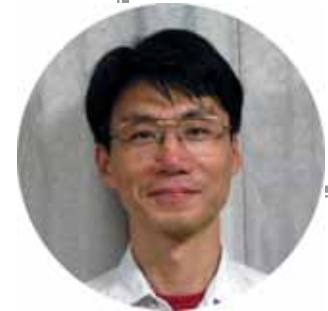
戦後の六甲山
国立公園化

記念碑台の移り変わり
(フィールドワークの案内)

実施日：平成17年10月15日(土)

午後12時30分～3時

場所：六甲山自然保護センター
レクチャールーム



講師：森地 一夫
もりち かずお

プロフィール

1960年生まれ。関西学院
大学院理学部卒業、神戸大学
大学院理学研究科数学専攻理学
修士。コンピューター・ソフ
トウェア会社に勤務。ボーイ
スカウト西宮地区役員。HP
「祖父の見た六甲山」を開設。



六甲登山ロープウェイ跡
を背に解説

実践こうべ学第2回と併催

今回の市民セミナーは、「実践こうべ学」の第3回講座と併催しました。県立神戸生活創造センター、県立人と自然の博物館と当会の三者が共催で実施しているものです。自然保護センターに総勢48名が集まり、レクチャールームは満員で賑わいました。雨が降ったりやんだり天気は不安定でしたが、「それも六甲山の自然の魅力だ!」と雨や霧の景色を楽しみました。

森地さんの探求心に感服

講師の森地一夫さんはホームページ「祖父の見た六甲山」を開設しています。六甲山の開祖といわれるA.Hグループ氏以降の六甲山開発について調べている卓越したフィールドワーカー(オタク?)です。講演では、阪神と阪急の開発競争をひも解かれ、意外と知られていない昭和初期の六甲山開発の様子を解説していただきました。また六甲山に関する本や地図など貴重な資料もたくさん紹介されました。小さな疑問を大切に森地さんの探求心には感服しました。



レクチャールームは満員状態

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

昭和初期の賑わいを辿る

開発の概要の話に続いて、4つのグループに分かれてフィールドワークをしました。探訪マップをもとに記念碑台周辺を歩き、昭和初期の写真と現在とを見比べました。六甲山ホテルの旧館や六甲登山ロープウェイ跡地など六甲山開発の名残を確かめながら、当時の賑やかな様子に思いを馳せました。

六甲山スローライフ探検隊が踏み出した

六甲山開発の歴史を探求する興味が募りました。これからの六甲山への関わりを考えるには、昭和初期の六甲山を知ることは重要です。森地さんの実践に学びながら、六甲山でのスローライフが賑わった時代に注目していきます。

詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 戸次 寿一さん

普段何気なく眺めていた六甲山、開発当時のことも考えたことはありませんでした。今回参加して、明治時代から戦前にかけて、山に想いをかけた人々の努力によって開発が進んだことを解説いただき、その一端をうかがい知ることができました。また、開発当時の痕跡を、実際にフィールドを通して知ることができたことも有意義でした。



【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)(財)ひょうご環境創造協会、コープこうべ環境基金、灘区役所「地域力を高める」事業助成